獄ノ原因
彼ノ長谷川三
郎ナルモノ我中
高国ニ於テ好夫
ナルヲ早クモ八
木原ガ之ニ窘蹶
セラレ無余儀
談会ニ臨席
セズシテ帰リタリ
帰途ニ何カ故カ
於中国法正律
駅ニ於テ足立
検事ノ命ニ因リ
拘引セラレ其後
西承協郡名主
駅ニテ釈放セ
ラレタリ其後
十四日午後五時

文集睫ル能ハズ通宵八木原氏ト無事ヲ痛論シ悲憤激昂熱シト抑スヘカラズ不覚大声ヲ発スル毎ニ忽チ看守等ノ為メニ中止セラレテ又タ言能ハズ余竊カ口ハ自由ヲ唱ヘテ反テ自由ヲ得ス身ハ正理ヲ踏ミテ反テ危険ニ陥ル豈天ニアラズヤト此ニ至テ左ノ一絶ヲ賦ス

翌二十一日伯父山田周太氏ヨリ牛肉ヲ差入レタリ全日午後六時頃看守余ニ告テ曰ク検察官ノ命ニ依リ自今国事犯ノ囚徒ニ限リ姓名ヲ呼バズシテ番号ヲ以テ

横町神林楼
ヨリ大鳴安次
長谷川三郎等
ノ名前ニテ左ノ
書面ヲ差出タリ
長谷川三郎我
ガ何カ故ヲ拘中
法正律ニ於テ捕
縛セラレシニ付テハ
大急ニ依テ保申ス
度一同ハ出来
苦労ナルモ
ミラナナ候
ミネネ和文
表山行一叉
加藤寄叉
余九ノ書面ヲ見
テ大ニ驚キ居シ

記シトス則チ足下ノ四号ト改ムルニ付右様承知アレト云ニシテ都合ニ依リ寺町大塩座ノ仮監ニ移スノ言渡ヲナシ直ニ該所ヘ送致セラレタリ大塩坐ニ至レバ猜シモヒ廣闊ナル堂舞台モ立錐ノ地ナリ巡査獄丁填咽ス而シテ其中間ニハ前後左右四分板ヲ以テ構造シタル六尺四方ノ小檻無数アリ翌日板ノ隙ヨリ窺ヒ見ルニ自由党中重立タルモノ續々繋ガレ来レリ余一見驚愕ニ堪ヘザリシ三四日ヲ経テ縣会議員鈴木昌司堀川信一郎江村正英ノ諸氏及ビ清野近策井上平三郎等ノ志士皆ナ入檻シタリ而シテ巡査獄丁ノ数追々増加シ取締等頗ル厳重ヲ極メタリ只ダ何ニ